

学術会議・課題別委員会

オープンサイエンスの深化と推進に 関する検討委員会

引原隆士

京都大学図書館機構長・附属図書館長
工学研究科 教授

京都大学



文部科学省・学術情報委員会

- 大学図書館の整備について 平成22年12月
- 学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について 平成24年7月
- 教育研究の革新的な機能強化とイノベーション創出のための学術情報基盤整備について 平成26年7月
- 学術情報のオープン化の推進について 平成28年2月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/index.htm

第9期

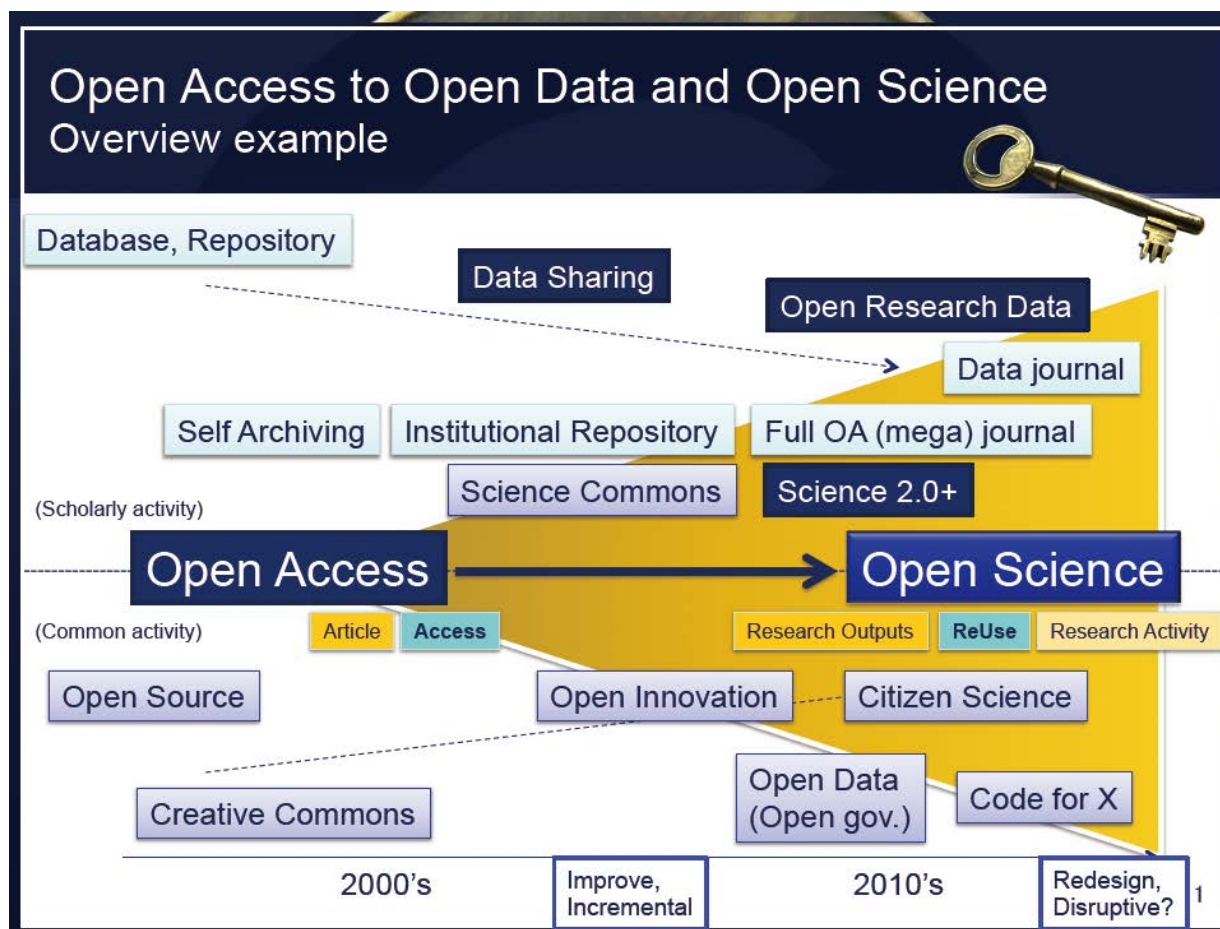
電子化の進展を踏まえた学術情報流通基盤の整備と
大学図書館機能の強化等について

京都大学



内閣府

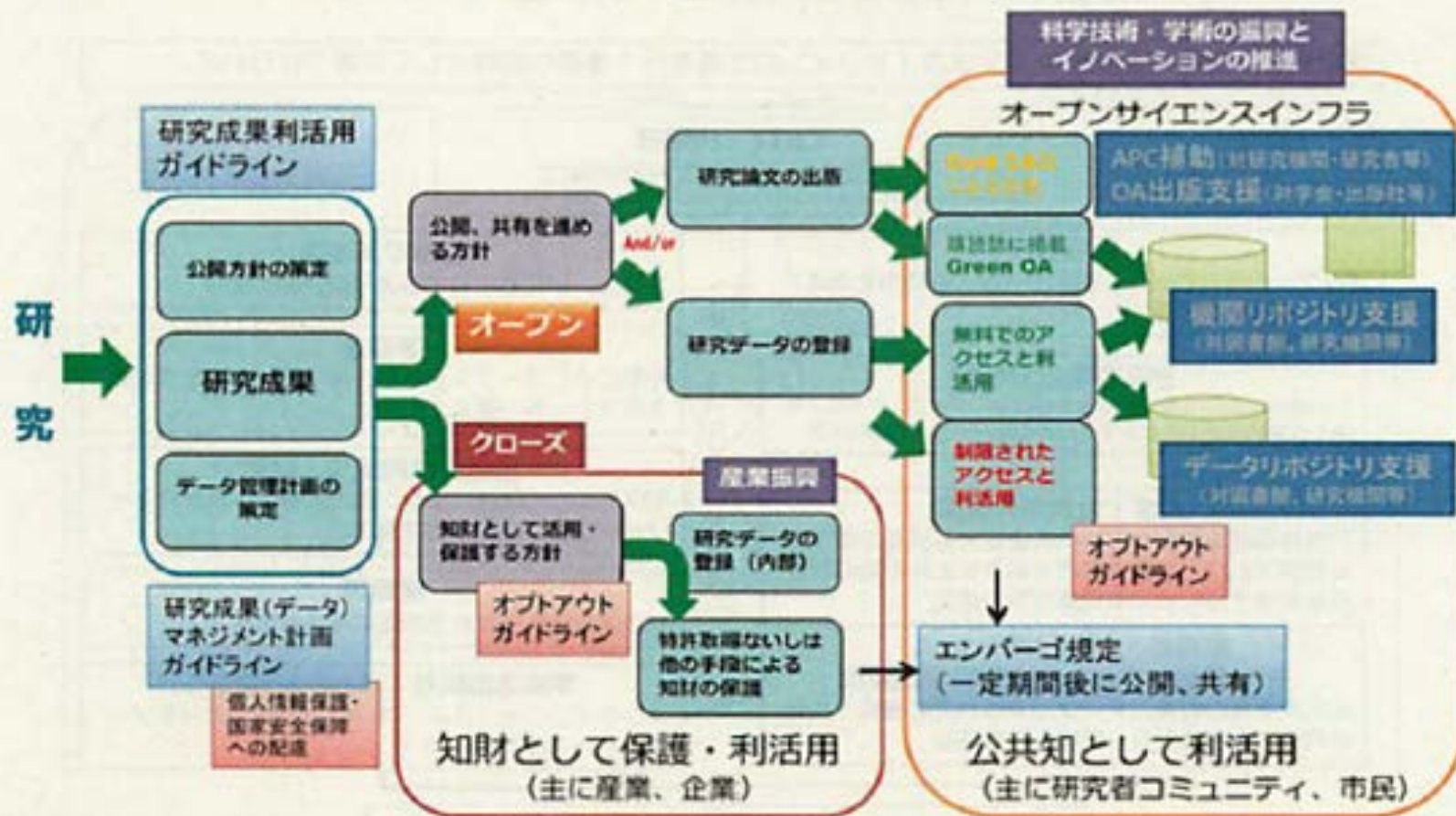
国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会
「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について
～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～」 （平成27年3月）



by courtesy of Dr. K.Hayashi, NISTEP

オープン・クローズ戦略

図オープンサイエンス オープンサイエンスポリシーマップ

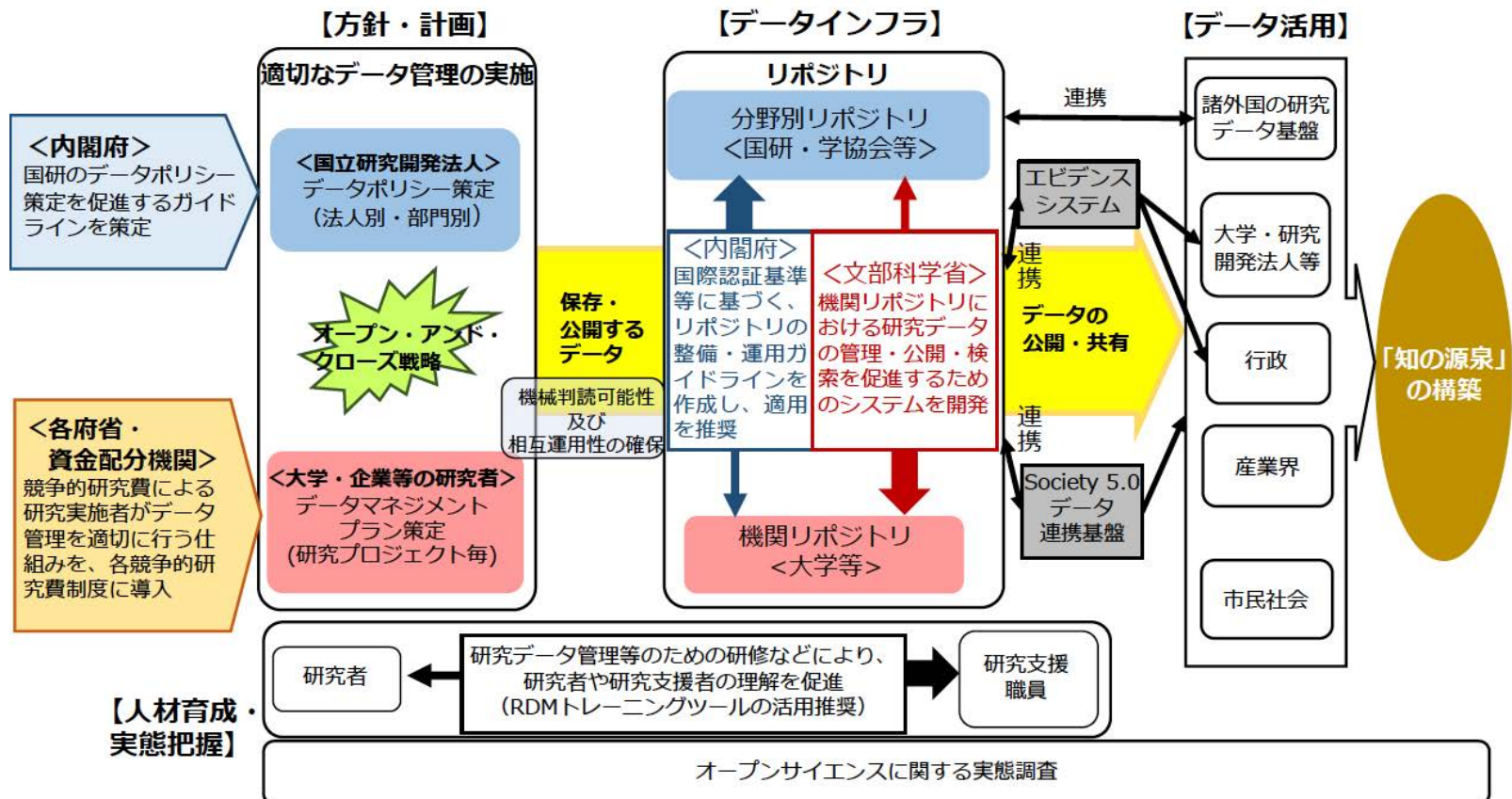


下記図表を参考に和訳、改変

Guidelines on Open Access to Scientific Publications and Research Data in Horizon 2020. Version 1.0 11 December 2013 p.4
http://ec.europa.eu/research/participants/data/ref/h2020/grants_manual/hi/oa_pilot/h2020-hi-oa-pilot-guide_en.pdf

内閣府

- ・ オープンサイエンスフォローアップ検討会 (2016.9～2017.3)
- ・ 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会 (2017.12～現在)



統合イノベーション戦略 (2018. 6. 15 閣議決定)

第2章 知の源泉

(1) Society 5.0 実現に向けたデータ連携基盤の整備

(2) オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備

○目指すべき将来像

- ・国益や研究分野の特性等を踏まえて、オープン・アンド・クローズ戦略³²を考慮し、サイバー空間上での研究データ³³の保存・管理に取り組み、諸外国の研究データ基盤とも連携して巨大な「知の源泉」を構築し、あらゆる者が研究成果を幅広く活用
- ・その結果、所属機関、専門分野、国境を越えた新たな協働による知の創出が加速

○目標

<リポジトリ³⁴の整備及び展開>

- ・機関リポジトリ³⁵を活用した研究データの管理・公開・検索を促進するシステムを開発し、2020年度に運用開始

<研究データの管理・利活用についての方針・計画の策定等>

- ・研究成果としての研究データの管理・利活用のための方針・計画の策定³⁶を促進
- ・これらの方針・計画に基づき公的資金による研究データについて、機関リポジトリを始めとするデータインフラで公開を促進
- ・公的資金による研究成果としての研究データについては、データインフラを通して機械判読可能性と相互運用性を確保するとともに、公開する研究データについては諸外国の研究データ基盤との連携を促進

(3) エビデンスに基づく政策立案／大学等法人運営の推進

第3章 知の創造

(1) 大学改革等によるイノベーションエコシステムの創出

(2) 戦略的な研究開発 (S I P、P R I S M、I m P A C T)

国立大学図書館協会ビジョン2020

- 図書館機能の強化と革新 → 「変化」への対応
(2016年6月17日採択, <https://www.janul.jp/>)

- 大学図書館の基本理念

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

- 重点領域

- 1. 知の共有: <蔵書>を超えた知識や情報の共有
- 2. 知の創出: 新たな知を紡ぐ<場>の提供
- 3. 新しい人材: 知の共有・創出のための<人材>の構築

資料から学術情報・データへ

過去



現在

オープン化

未来

アーカイブ

オープンアクセス＝手法

オープンデータ

電子化・保存

全てのアクセス
の保証

資料
資料
資料
資料
資料
資料
資料

書籍

図書館という
公共への集積

公共物の概念

情報の紙
への固定
(記録)

記録

知の集積⇒多様性
(ローカル)

EJ
eBook

ものの概念
情報の概念

書籍・雑誌
概念の維持

出版社寡占⇔集積

知の占有化
(流通のグローバル化)

ものから分離さ
れた情報の集積

自由化

多様な利用への展開
(利用のグローバル)

データI
時間からの解放

クロス利用

論理 I

データII

論理II

編集
査読
出版
の意味の喪失

京都大学



研究のライフサイクルとオープン化

